

## 努力賞 (子どもの部)

「本当はやさしいお兄ちゃん」

荒川区立赤土小学校三年

宮田 眞子

やなぎ田先生こんにちは。私のお兄ちゃんにそっくりな子が出ている本を見つけたので聞いてください。この本の中では、にいさんはいもうとをからかってばかりいます。

「おまえのキャンディーもらった」

「あれ おまえ めが みっつもあるよ」

と言っているもうとを泣かせます。でも本のにいさんは本当はやさしいと思いました。本当はキャンディーもとらなかつたし、目が三つもあると言っ

てたときは、なぐさめるようにいもうとの頭をなでていたからです。

この本を読んだ時、私とお兄ちゃんのことみたいでびっくりしました。うちのお兄ちゃんも私をからかいますが、本当のいじわるはしません。たとえば、私がトイレに入ってる時にドアをしめて「もう開かないよ」と言った時のこと。本当はドアをすぐ開けてくれました。からかわれるのはすごく嫌だけど、やさしいところもあります。昨日は大好きな茶わんむしのトロツとしたところをくれました。絵本の中のにいさんは、とうとういもうとに相手にされなくなりましたが、最後はいもうとと絵をかいて遊びました。にいさんといもうとがまた遊べるのは、にいさんが本当はやさしいことをいもうとが知っていたと思えました。にいさんも私の

お兄ちゃんも遊んでもらいたくてからかったのかなと思いました。さいきん私もお兄ちゃんのからいをスルーできるようになってきました。お兄ちゃんも本の中のにいさんと同じで、ちょっと相手にしないと、一緒に遊ぼうとよってきます。やなぎ田先生もそんなけいけんはありますか？私は世の中にはもっとやさしいお兄ちゃんがいっぱいいると思ってましたが、この本を読んでお兄ちゃんは大体同じと思いました。この前、お兄ちゃんがお金をためて、私にうさぎのぬいぐるみを買ってくれました。やなぎ田先生、私はやっぱりお兄ちゃんがだいすきです。だって二人で動画を見てる時が一番楽しいから。